

## 新規事業



# モロッコ地震被災者緊急支援事業

— 緊急支援が届かない山岳遠隔地の人々にこそ支援を届ける —



活動地域: アル・ハウズ県56村  
 事業期間: 2023年9月~11月(2か月)  
 事業規模: 1,197千円(総事業規模: 1,000万米ドル)  
 主な支援者: 個人、支援組織

**56** 村  
 支援を届けた村の数

**6,000** 世帯  
 支援を届けた世帯数(推定3万人)

**4,002** 人  
 心のケアの支援を受けた人数



© 2023 Fethi Belaid/AFP

**課題** 2023年9月8日、モロッコ西部マラケシュ近郊のハイアトラス山脈を震源地としたマグニチュード6.8の地震が発生。この120年間で同地域を襲った最も強いものとなりました。同国内務省によると、この地震とその後数週間の余震により、2,946人が死亡、5,674人が負傷し、アル・ハウズ県、タルーダン県、チチャウア県、ワルザザート県、マラケシュ県のインフラは壊滅的な打撃を受け、推定59,674棟の家屋が倒壊、全体で30万人が影響を受けました。さらに、家屋だけではなく、同地域の600近い学校が大きな被害を受け、被災した地域社会に壊滅的かつ長期的な影響を与えることが懸念されています。

**活動内容** CAREは地震発生の数日後から、アル・ハウズ県の脆弱な世帯に食糧や、衛生・尊厳キットを含む生活必需品の配布を開始。家屋倒壊の被害の大きかった同県では、シェルターの不足が深刻化していたため、毛布の配布に加え、テントほか防水シートなど一時的なシェルターを用意するための資材を届けました。さらに、被災によるトラウマの影響を軽減し、いち早く回復へと導くためには、早い段階から心のケアを行うことが重要であるため、初動支援期から、現地のパートナー団体と連携して、社会心理的支援を届けました。また、地震発生から半年以上が経過してなお、緊急支援に対するニーズが残っていたことから、復興支援への移行と並行して、緊急シェルター、衛生用品、その他の食糧以外の物資配布、心のケア支援を継続。加えて、600近い学校が甚大な被害を受けたことから、被災地域の子どもたちが平常心を取り戻すための支援を展開しました。さらに、脆弱な人々の安全と尊厳を確保するため、女性と女子のための安全なスペースの提供なども行いました。

### 受益者の声



© CARE Maroc

#### ザーラさん

地震発生前は村落貯蓄組合に参加し、CAREの識字クラスにも申し込んでいたザーラさん。地震直後には、CAREから救援支援物資を受け取りました。「CAREの迅速な対応と心のケアのサポートのおかげで、回復力と強さを身につけることができました。受け取った頑丈なテントは、冬が近づくにつれて、屋外で寝ることへの恐怖と不安を和らげてくれました」と振り返ります。今は、CAREの支援により、崩壊した自宅の裏庭で養鶏業を復活させ、蓄えた収入で、娘に裁縫を習わせ、将来の夢を再建することができました。「母の強さは、私たちに未来への希望を与えてくれます」と、娘のカディジャさんは誇らしげに語ってくれました。